

第132回交流フロア運営会議（議事概要）

1 日時・場所

日時：2023年4月5日（水） 18：30～20：00

場所：伊丹市立図書館ことば蔵 1階交流フロア

2 参加者数 23名

3 会議内容

<新規提案>

（1）ヒトゴトじゃない！不登校シミュレーション&遊びのプロが伝えたい、心の土台

【概要】

・昨年11月に開催したイベントを、夏休み前に開催したい。各参加者が、わが子が「学校に行かない」といった場合を想定し、各家庭での対応を物理的、心理的なシミュレーションを通して考えてみる。

・家庭が子どもにとって安心できる場所につながる、『遊び』の効果についても紹介する。

【意見】

・開催時期を夏休み前としているのはなぜか。

→例年夏休み明けが、他の月と比べて子どもの自殺が多くなる。夏休み前に考える機会を設けることで抑止としたい

・遊びのプロとはなにか。

→遊びの効果の紹介を担当する不登校家庭に訪問看護を行っている看護師が自称している。子どもの心に寄り添うアプローチの一つ。

（2）こども作戦会議2023 新学期特別企画 あいであそん

【概要】

・3年ぶりに開催するこども作戦会議のプレイベントとして、「やってみたい」や「面白そう」などのアイデアを出し合って交換するイベントを開催したい

・アイデアソンとは企業でも行われているアイデア創出法の一つ。他の参加者のアイデアと組み合わせ、最終的に決まったやりたいことをイラストにする。

・このイベントへ参加していなくても、こども作戦会議2023へ参加可能。またこのイベントで出たアイデアはこども作戦会議2023を行う際に参考にはするが、絶対に実現するわけではない。

【意見】

・子どものアイデアが物騒なものにならないよう、ある程度の決まりは事前に伝える方がいいと思う。

→できるだけ自由に考えてもらいたいと思っているが条件として、人が嬉しくなるものなどをくわえることも検討する。

→「〇〇さんがいなくなってほしい」などマイナスなものがあったら、なぜそう思うのか聞いて「〇〇さんにやさしくなってほしい」などの軌道修正を加える。

(3) キッズ・サバイバー講座（地震編）

【概要】

・子育て世代の家族を対象にした防災イベントを行いたい。防災の講座の他、応急手当や AED の体験を行う。

・家族で参加して、災害対応や応急手当について考えるきっかけをつくりたい

・前回まで小学生とその家族としていたが、参加者が少なくなってきたため、防災に興味のある家族と対象を変更する。大人だけの参加も可能

【意見】

・対象を変更するということだが、タイトルはキッズ・サバイバーのままなのか。キッズだとやはり、低学年の子の参加が多くなるのではないか。

→次で 13 回目を迎える講座であるため、できればタイトルはそのままにしたい。募集の文言で「家族」が対象であることを強調する。

・幼稚園児でも参加可能か。

→可能。ことば蔵では小学生を対象としてきたが、他の施設では幼稚園児向けの講座も行っている。

(4) 夏休み子ども向けイベント

【概要】

・夏休みに子どもたち向けのイベントを開催したい。交流フロア会議メンバーで色々なブースを作って見てはどうか。

・交流会議を経て、何度もイベントを開催してきたが、イベント企画者同士の繋がりは少ない。協力して一つのイベントを行ってみたい。

・夏祭りの出店のように、それぞれの企画者が担当する様々なブースを巡るイメージ。

【意見・感想】

・しっかりと告知をするには早めに内容を決めておく必要がある。7月上旬には図書館の夏休みイベントとして告知ができる様に6月には参加する企画者とブースの内容が確定している必要がある。

・ブースの中にはワークショップも想定しているようなので、夏休みの自由研究に使えるようなものを用意してはどうか

→開催日について8月の後半を想定している。そのため、自由研究の題材とするのは少し遅いかも

しれない。

・やる内容については、それぞれの企画者に考えてもらうようだが、どんなブースをつくるべきなのか、使える備品は何かなど、募集するにあたり、指針などを作っておいた方がいいと思う。

・参加する企画者が多くなると、取りまとめも大変になる。

→できるだけ取りまとめと企画者双方の負担が少なくなる形式を模索する。

(5) 第3回こと×プラコンテスト

【概要】

・プラモデルを作成し、その写真と、どこを頑張って作ったのか、制作にまつわるエピソードや、楽しかった事、思い出を綴った作文を募集するコンテストを行いたい。今回で3回目となる。

・募集終了後にはことば蔵で展示を行い、来館者に好きな作品を投票してもらう。

【意見・感想】

・申し込みはどのような形で実施するのか

→基本は電子申請。電子申請が難しい人は、図書館のほうで随時対応する

・賞がいくつかあるがこれは景品がつくのか。

→景品は企画者の予算によるため、何を渡せるのか現時点で確定しておらず、記載できない。

(6) 松尾芭蕉の生涯とおくのはそ道を語る

【概要】

・俳句の町、伊丹市のみなさんに、俳聖松尾芭蕉の生涯や、おくのはそ道の内容について知っていただけるイベントを開催したい。

・公益財団法人 松尾芭蕉顕彰会の会員として、松尾芭蕉の旅路を辿りながら、各地で読まれた俳句について解説をする。実際に俳句を詠むことはない。

【意見・感想】

・発案の中で小学生も参加してもらえればとあったが、小学生と大人だと準備する内容が大きく異なるのではないかと。

→配布資料はなく、ホワイトボードに地図を貼りつけて、解説していく。なので資料については、誰でもわかる簡単なものを準備予定。

・中学校では、奥の細道の有名どころしかわからない。そこで興味を持った学生なら参加するかもしれない。

(7) 伊丹の民話を聞いて、古ハガキでペンケースを作ろう

【概要】

・子どもたちに、無形文化財である伊丹の民話・昔話に親んでもらうとともに、ものづくり体験を通じて、その楽しさを知りつつ、自由な発想力を養うイベントを開催したい。

・民話はデジタル化した紙芝居を使用する。演目は三軒寺の砂かけ狸など2題。30分ほどの予定。

・ものづくりはペンケースとしているが、他にも作れるものがあるので変更する可能性あり。60分

ほどの予定。

【意見・感想】

・過去に有岡の子どもたちが作った文化財かるたも活用してほしい。

→今回は紙芝居とものづくりを行うため、今後の参考にさせてもらう。

・紙芝居について、デジタルではなく紙の方が暖かみがでていいのではないかな。

→紙芝居だと目の前の数人が対象になるが、デジタルであれば多くの子どもたちに見てもらえると
思う。ただ、紙ベースのものもあるので用意はしておく。

(8) 車イスサポーターってなあに？

【概要】

・車イスユーザーの日常レポートや車イス体験から、街でどのように超え替えをすれば良いのか、
どのような事が大変なのか伝えるイベントを開催したい。

・車イスサポーターは車イスユーザーに手を差し伸べられる人のこと。いろんな人にサポーターと
なってもらいたい。そのためにまずどんなサポートが必要なのか知ってほしい。

・伝えるだけでなく、意見交換の場も設けたい。

【意見・感想】

・車イス体験はどんなことを行うのか。

→すのこを3枚使って段差をつくり、それを乗り越える体験。初めての方はほとんどがつまづくの
で、そこでどのようにサポートすれば乗り越えられるのかレクチャーする。

・参加者が全員体験したら、結構時間がかかるのではないかな。車イスは何台用意する予定なのか。

→参加人数によって、体験する人数は調整する。車イスについてはことば蔵に救護用で2台あり、
イベントで使えなくはないが、当日緊急事態があればそちらが優先となるため、使えない可能性も
ある

(9) Make Our Tanka 「会」～ことば蔵 即詠歌会～

【概要】

・インターネット上で短歌を詠む、歌会を開催しており、それを図書館でも開催したい。

・短歌は個人で詠むものだが、このイベントではグループに分かれて、それぞれで1つの短歌を詠
みたいと思う。

【意見・感想】

・短歌の初心者は参加していいのかな。

→グループで1つの短歌を作るため、経験者だけでなく、未経験者や初心者が入ることでの盛り上
がりがあると思うので色々な人に参加してほしい。

・初心者も参加可能であることはチラシに記載した方がいいと思う。ただその結果、参加者が初心
者だけになってもイベントが成り立つようにはしておく必要があると思う。

→所属している歌人クラブのメンバーにスタッフとして参加してもらえないか打診する。

・短歌とは何か、イベントでは具体的に何をするのか、記載しておいた方が分かりやすいと思う。

<イベント実施報告>

(1) いたみ文芸「ことそうし」

参加者は5人。7月から募集していたリレー小説含め、各参加者の作品を1つの同人誌にまとめた。交流フロアで展示しているのでぜひ見て欲しい。

(2) ことば蔵市民企画書作成会

参加者は2人。これまでのイベント開催経験を活かして、運営会議とおしてイベントを行うノウハウをお伝えした。また、プラモデルのつくMOでbuildさんもスタッフとして参加してくれた。このイベントの参加者が、短歌のイベントを発案してくれたので嬉しく思う。

(3) キッズ・サバイバー講座

参加者は11人。地震の仕組みと、直前の行動の他、日頃から準備しておけることを伝えた。また参加した子どもたち全員が応急手当体験を行えた。回を重ねるごとに参加人数が少なくなってきたるので、対象の見直しを考える。

(4) 漫画を語ろう！

参加者は8人。テーマは「卒業漫画」。なのだが、あまり卒業に関する漫画は集まらなかった。図書館を題材にした漫画の話題からレファレンスサービスについての話で盛り上がった。

次回は4月26日(水)18時30分～ テーマ「だまされた漫画」で開催。

(5) 図書館でらくがきアート

参加者は27名。床に大きなロール紙を2枚引いて、片方は空想動物、空想旅行マップとテーマを設定して、それぞれ時間を区切り自由に絵を描いてもらった。

1人が富士山を書くとみんな富士山を書き始め、面白かった。また、図書館で用意した図鑑も参考に描いていた。まだロール紙はあるので、他にも活用したい。

(6) 大人と一緒にミライの名刺をつくろう！

今回で3回目の開催となり、参加者は12人だった。将来の自分を想像して名刺をデザインした後、実際に印刷された名刺を使い、子どもたち同士で名刺交換を行った。大人が最初にやり方を見せたらすぐに実践していた。

4 次回の運営会議 2023年5月10日(水)18:30～ ことば蔵1階 交流フロア